

報告事項

企画展「生誕 100 年 彫刻家 辻晉堂展」の開催について

企画展「生誕 100 年 彫刻家 辻晉堂展」の開催について、別紙のとおり報告します。

平成 22 年 11 月 16 日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

# 企画展「生誕100年 彫刻家 辻 晉堂<sup>しんどう</sup>展」の開催について

1 展覧会名	生誕 100 年 彫刻家 辻 晉堂展
2 会 期	平成 22 年 1 月 27 日(土) ~ 平成 23 年 1 月 10 日(月・祝)
3 会 場	鳥取県立博物館 第 1・2・3 展示室
4 主 催	鳥取県立博物館、読売新聞社、美術館連絡協議会
5 協 賛	ライオン、清水建設、大日本印刷、日本通運株式会社鳥取支店 株式会社モリックスジャパン 三和商事株式会社 株式会社吉備総合電設
6 観 覧 料	一般 1000 円(前売、団体 800 円)
7 概 要	鳥取県日野郡二部村(現・伯耆町)二部出身の辻晋堂(つじ・しんどう 1910 年~1981 年)は、陶彫(陶土でつくり窯で焼いた彫刻)などによる斬新な彫刻作品を世に問い、戦後の彫刻界に独自の位置を占めた優れた彫刻家。2010 年が辻の生誕 100 年にあたることを記念して開催する本回顧展は、各時代の代表作を中心にたどりながら日本の彫刻史における辻の位置、さらには現代陶芸に辻がもたらしたものについて、見つめ直す機会を提供するもの。

## 1. 本展の見どころ

### (1) 27年ぶりの回顧展。

大規模な回顧展としては、辻没後の 1983 年に京都、鳥取、東京で開催された回顧展以来。その展覧会では出品されていなかった東京国立近代美術館所蔵の大作「歩く壁」や、近年発見された作品など全部で 120 点の作品を展示。

### (2) 初期から晩年にかけて大きく変化していった辻作品の魅力をバランスよく紹介。

- ・「初期 ポエジーの彫刻」：若き日の、詩情に満ちたあたたかみのある肖像彫刻(木彫など)を展示。
- ・「中期 パッションの彫刻」：戦後、京都に移り、「陶彫」という新しいジャンルを開拓。土と炎の激しさが抽象彫刻として結実し、それらは美術評論家らに高く評価され、サンパウロやヴェネツィアのビエンナーレに日本代表の一人として参加。その時出品された作品のほとんどを全国から集めて展示。
- ・「後期 ユーモアの彫刻」：禅僧でもあった辻は次第に「彫刻」という概念に縛られない境地へとすすみ、晩年は自ら「粘土細工」と呼んだユーモアあふれる小品を多く制作。自分自身や知人、西行や芭蕉等の「詩人」をモチーフとした分かりやすい作品群を紹介。

## 2. 関連事業 ワークショップ以外は 14:00 開始。 ワークショップのみ参加費(材料費)が必要。

開催日	名 称	講 師
11 月 27 日(土)	パネルディスカッション 「師を語る 辻晋堂が現代に投げかけるもの」	山崎脩氏(彫刻家)、宮永理吉氏(陶芸家)、青木正弘氏(美術評論家)
12 月 18 日(土) 1 回目 9:30 ~ 2 回目 13:30 ~	ワークショップ 「やきものでつくる! ~ワタシのなかの夢の国」	梶村 自得 氏 (陶芸家、米子市在住)
12 月 11 日(土) 12 月 25 日(土)	ギャラリートーク (観覧料が必要)	当館学芸員
12 月 4 日(土)	アートセミナー「オブジェとは何か」	当館学芸員
1 月 8 日(土)	アートセミナー「辻晋堂のパブリックワーク」	当館学芸員

そ の 他 博物館での展示終了後、神奈川県立近代美術館 鎌倉(1月29日~3月27日)へ巡回展示。